

別表5

(3)

主 論 文 要 旨

No.1

報告番号	甲 乙 第	号	氏 名	早田 吉伸
主 論 文 題 名 : 社会課題解決のための協働の場の研究 － 先導的市民大学とフューチャーセンターに基づく統合モデルの提案－				
(内容の要旨) 社会の急速な変化を背景に社会問題が複雑化・肥大化する一方、行政のパワーが相対的に縮小していく中、公共の捉え方が大きく変化している。特に近年では、市民と行政が協働することで社会課題解決にむけて創発を生み出すプラットフォームとしての場が強く求められている。 しかし、これまでいくつかの事例は見られるものの、社会に一般化するためのモデルの提示が不足している状況にある。本研究では、その点に強い問題意識をもち、公共領域でのイノベーションに寄与するための場の研究を実施した。具体的には、「学習の場」と「実践の場」の2つの観点に基づく仕組みづくりを論じた。 1章では、まず、公共概念の変化と協働を取り巻く状況を俯瞰し、整理・分析した。次に、市民協働の研究において行政と市民の協働の場が重要であること、特に「学習」と「実践」の観点が重要であることを明らかにした。 2章では、既存の学問領域の研究に基づき、協働の場の概念をデザインした。行政学や公共政策学にけるガバナンス論の研究を軸に、新たに教育学における学習論と経営学における知識経営論(イノベーション)の視点からの考察を加えて「学習の場」と「実践の場」からなる協働の場の概念を示した。 3章では、市民協働の最新の動きであるオープンガバメントの取り組みを調査分析し、事例検証した。協働が進んでいる地域において「学習の場」と「実践の場」が機能していること、また二つの場が相乗効果を発揮していることを明らかにした。 4章では、先導的市民大学が「学習の場」として機能していることを指摘し、これに基づく「学習の場」のモデルをデザインした。またこのモデルに基づく施行プロジェクトを実施し、本モデルが有効に機能することを検証した。 5章では、海外で先行しているフューチャーセンターが「実践の場」として機能することを指摘し、これに基づく「実践の場」のモデルをデザインした。またこのモデルに基づく施行プログラムを実施し、本モデルが有効に機能することを検証した。 6章では、2つの場のモデルの課題を分析した上で、「学習の場」と「実践の場」を統合し、全体の協働の場のモデルを示した。その上で、試行プログラムを実施し、考察を行った。 最後に7章では、結論として本研究をまとめ、その意義を明確にするとともに、今後の展開についてまとめた。 以上のように、本研究では市民と行政の協働のための場を行政学や公共政策学等の研究に、教育学や経営学からの新たな視点を加え、幅広い先行研究や国内外の事例研究から学際的な示唆を得るとともに、システムデザイン・マネジメント学を用いて、協働の場のモデルをデザインしたものである。				